

令和3年度 学校評価報告（集計結果と考察・改善策）

【総合判定】 A(平均肯定率90%以上) B(平均肯定率80%以上) C(平均肯定率70%以上) D(平均肯定率70%未満)

【肯定率】 4段階評定の4と3の肯定的評価の割合(%)

【評定】 4:とても思う 3:やや思う 2:あまり思わない 1:全く思わない

評価領域	評価指標	総合判定	平均肯定率	対象	肯定率	評定(%)				考察と改善策
						4	3	2	1	
教育課程・学習指導	学校は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	91	児童	94	55	39	5	1	「教育課程・学習指導」に関しては、引き続き、児童の実態をしっかりと把握し、個々が学ぼうとする意欲を持続させながら学習に取り組めるよう学習指導の創意工夫・改善に努める。
				教職員	91	13	78	9	0	
				保護者	89	13	76	10	1	
	学校は、児童の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け指導を行っている。	A	94	児童	96	60	36	3	1	
				教職員	97	9	88	3	0	
				保護者	90	14	76	9	1	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	92	児童	94	64	30	4	2	「人権・同和教育・生徒指導」に関しては、今後も個に応じたきめ細かな配慮を心掛け、児童が安心して学校生活を送ることができるようになる。また、「いじめ0の日」の活動を充実させ、思いやりの気持ちをもって人間関係が築けるようになる。
				教職員	94	23	71	6	0	
				保護者	88	14	74	10	2	
	学校は、児童の実態に応じた適切な指導や支援を行っている。	A	91	児童	94	58	36	5	1	
				教職員	97	26	71	3	0	
				保護者	83	14	69	15	2	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の生き方について考える児童を育てている。	B	87	児童	92	60	32	6	2	「キャリア教育」に関してはB評価である。本校ではどんな力を身に付けさせるのかを明確にし、指導の充実を図る必要がある。
				教職員	88	13	75	12	0	
				保護者	80	11	69	18	2	
安全管理	学校は、児童の交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	96	児童	97	73	24	2	1	「安全管理」に関しては、各学年・学級での具体的な事例を基にした児童への安全指導が充実していることが伺える。
				教職員	97	32	65	3	0	
				保護者	95	26	69	4	1	
保健管理	学校は、個々の健康状態を確認するとともに環境衛生の維持・改善を行い、健康保持・増進に努めている。	A	95	児童	93	68	25	6	1	「保健管理」に関しては、組織的に新型コロナウイルス感染症予防に取り組んでいる。「マスク着用」「手指衛生」「換気」は徹底した指導ができています。また、免疫力を高める観点からも食育指導を充実させることができた。
				教職員	97	35	62	3	0	
				保護者	96	21	75	3	1	
	学校は、「3つの密」を徹底的に避ける、「マスクの着用」及び「手洗い」などの手指衛生など、校内における新型コロナウイルス感染症対策を適切に行っている。	A	97	児童	96	76	20	3	1	
				教職員	97	52	45	3	0	
				保護者	97	26	71	3	0	

特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって教育活動に取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	93	児 童	94	60	34	4	2	「特別支援教育」の視点で個を大切に した配慮や支援ができている。 教育相談を充実させ保護者の思い もしっかりと受け留め関わりを充実 させている。
				教職員	94	19	75	6	0	
				保護者	90	15	75	8	2	
組織運営	学校は、新型コロナウイルス感染症対策や相談事案等、組織的に対応を行っている。	A	98	児 童						「組織運営」に関しては、誠実 で丁寧な対応により、保護者との 良好な信頼関係を築いている と思われる。
				教職員	100	55	45	0	0	
				保護者	95	19	76	4	1	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや様々な教育課題への対応のため、積極的に指導方法の工夫・改善に取り組んでいる。	B	89	児 童						「研修」では、「ICTミニ研修」 を実施し、タブレット等の効果的 な活用法について研鑽してい る。教職員の活用力を高め授業 改善に努める。
				教職員	94	26	68	6	0	
				保護者	83	12	71	15	2	
連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	92	児 童						「連携・情報提供」では、コロナ 禍において学校の教育活動が 見えにくい中、ホームページを 充実させ、保護者が安心できる よう努力している。 引き続き、児童の活動の様子 を積極的に発信していきたい。
				教職員	91	16	75	9	0	
				保護者	92	17	75	7	1	
	学校は、ホームページや学年だより等により、積極的に情報を発信している。	A	94	児 童						
				教職員	94	35	59	6	0	
				保護者	93	26	67	6	1	
教育環境整備	学校は、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICTを活用している。	A	95	児 童	92	54	38	7	1	「教育環境整備」に関しては、 基礎的な学力の定着と向上を 目指し、タブレットを積極的に活 用させている。しかし、児童に よっては、学習に関係のない使 い方をしていることも見受けら れるなど、課題がある。ルールを しっかりと徹底させ、適切な活 用法が身に付くよう指導を続け る。
				教職員	100	35	65	0	0	
				保護者	93	23	70	6	1	
	学校は、板書の工夫等の言語活動の整備及び展掲示の充実等の環境整備に努めている。	A	93	児 童						
				教職員	94	16	78	6	0	
				保護者	91	13	78	8	1	
幼・保・小・中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために幼・保・小・中で連携し、学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	C	79	児 童						「幼・保・小・中連携」に関して は、C評価である。コロナ禍にお けるこの状況の中で、十分な連 携ができていることが考えら れるが、個を大切にしたい指導を 充実させるためにも必要なこと はしっかりと行っていきたい。 また、保護者にも連携の様子 を理解していただけるよう情報 提供の仕方について工夫してい きたい。
				教職員	84	9	75	16	0	
				保護者	73	7	66	23	4	
	学校は、教育の質の向上のために幼・保・小・中で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っている。	C	78	児 童						
				教職員	77	9	68	23	0	
				保護者	79	5	74	17	4	
	学校は、幼・保・小・中で連携し、教職員の児童理解や、児童の相互理解の促進を図っている。	C	79	児 童						
				教職員	84	9	75	16	0	
				保護者	74	6	68	23	3	

その他	お子さんは、学校に楽しく通っている。	A	93	児 童	96	77	19	2	2	児童は、概ね楽しく学校に通い、学校生活において思いやりの気持ちをもって仲良く活動できている。 しかしながら、次の項目については昨年度と同様のC評価である。 ・「挨拶」 ・「家庭学習の習慣」 ・「読書」 ・「手伝い」 これまでも、教職員で手立てを考え、粘り強く指導を継続してきているが、十分な成果が得られていないのが現状である。特に、読書指導に関しては「親子読書チャレンジ週間」を設けるなど、読書への関心を高める工夫をしたが、日常化にはつながっていないのが現状である。 今後さらに家庭との連携を強化し、家庭への啓発を継続・充実させながら対応していきたい。
	お子さんは、家庭や地域で挨拶ができる子に育っている。	C	79	教職員						
				保護者	90	32	58	9	1	
				児 童	76	29	47	20	4	
	お子さんは、友達を思いやり、仲よく活動できている。	A	93	教職員	78	10	68	22	0	
				保護者	82	17	65	17	1	
				児 童	97	66	31	2	1	
	お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。 学年×10分+10分 (例)6年生 6×10+10=70(分)	C	69	教職員	87	16	71	13	0	
				保護者	94	25	69	6	0	
				児 童	83	38	45	14	3	
	お子さんは、学年に応じた基本的な学力が身に付いている。	B	83	教職員						
				保護者	54	13	41	36	10	
				児 童	90	10	80	10	0	
	お子さんは、読書に親しんでいる。	C	70	教職員	75	10	65	22	3	
				保護者	80	46	34	15	5	
				児 童	84	19	65	16	0	
	お子さんは、家の手伝いや仕事ができる子に育っている。	C	74	保護者	47	17	30	44	9	
				児 童	80	40	40	17	3	
				教職員						
	学校のことについて家の人とよく話している。	B	81	保護者	68	15	53	29	3	
				児 童	81	49	32	15	4	
				教職員						
	堀江小学校は安心して通える学校である。	A	95	保護者						学校で学習したことや体験したことを保護者に伝える児童が増えれば、学校への信頼度が高まると思われる。配慮の必要な児童については家庭との連絡を密にし、連携して指導・支援を継続させる。
				児 童	95	72	23	4	1	
				教職員						
				保護者						